

技術評価報告書

申込者： 共英製鋼株式会社 代表取締役社長 廣富 靖以
大阪市北区堂島浜一丁目4番16号 アクア堂島西館18階

共英加工販売株式会社 代表取締役 宇佐見 達郎
山口県山陽小野田市大字小野田6289-18

株式会社長谷工コーポレーション 代表取締役社長 池上 一夫
東京都港区芝二丁目32番1号

技術名称： HKリング490 溶接せん断補強筋

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2021年10月8日付けの技術評価書(SABTEC 評価 21-02)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2021年10月8日

一般社団法人
建築構造技術支援機構

代表理事 益尾 潔

建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
副委員長	田才 晃	横浜国立大学	名誉教授
委員	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	勅使川原正臣	中部大学工学部建築学科	教授
〃	都祭弘幸	福山大学工学部建築学科	教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

HKリング490 溶接せん断補強筋 専門部会

主査	都祭弘幸	福山大学工学部建築学科	教授
委員	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授



技術評価書

申込者： 共英製鋼株式会社 代表取締役社長 廣富 靖以
大阪市北区堂島浜一丁目4番16号 アクア堂島西館18階

共英加工販売株式会社 代表取締役 宇佐見 達郎
山口県山陽小野田市大字小野田6289-18

株式会社長谷工コーポレーション 代表取締役社長 池上 一夫
東京都港区芝二丁目32番1号

技術名称： HKリング490 溶接せん断補強筋

技術概要： HKリング490は、共英製鋼(株)枚方事業所が製造するJIS G 3112に適合する異形棒鋼タフコンSD490を用いた鉄筋コンクリート造柱、梁に配置されるせん断補強筋であり、溶接閉鎖型、フック形式およびキャップタイ形式として用いることができる。HKリング490溶接継手は、2020年版建築物の構造関係技術基準解説書に示された建設省告示第1463号(平成12年5月31日)に基づく「鉄筋の溶接継手性能判定基準」によるA級継手と同等の性能を有するとしている。
HKリング490の場合、JASS5による鉄筋の折曲げ形状寸法の規定に基づき、曲げ角度180°として曲げ性能を確認することで、末端135°フックおよび180°フックにも適用できるものとしている。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2021年10月8日

一般社団法人
建築構造技術支援機構
建築構造技術審議委員会
委員長 窪田 敏行

記

評価方法： 申込者提出の下記資料を基に、技術評価を行った。
HKリング490標準製造要領書、溶接試験説明資料および関連資料
これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。

評価内容： HKリング490溶接継手は、2020年版建築物の構造関係技術基準解説書に示された建設省告示第1463号(平成12年5月31日)に基づく「鉄筋の溶接継手性能判定基準」によるA級継手と同等の性能を有すると判断される。

技術評価内容

申込者

共英製鋼株式会社 代表取締役社長 廣富 靖以
大阪市北区堂島浜一丁目4番16号 アクア堂島西館18階

共英加工販売株式会社 代表取締役 宇佐見 達郎
山口県山陽小野田市大字小野田6289-18

株式会社長谷工コーポレーション 代表取締役社長 池上 一夫
東京都港区芝二丁目32番1号

技術名称

HKリング490 溶接せん断補強筋

適用範囲

- (1) 素材鉄筋 共英製鋼(株)枚方事業所製異形棒鋼タフコン SD490
呼び名 : D13, D16
- (2) 溶接方式 アップセット溶接
- (3) 製造工場 共英加工販売(株) 広島工場、大阪工場
- (4) 溶接機 (株)日本溶接機製 BUE-60-Y

技術評価に際して行われた試験

HKリング490 溶接継手性能の妥当性は、共英加工販売(株)広島工場と大阪工場それぞれ製造した溶接試験片250本の検知試験結果、ならびに、下記の1)~3)の試験結果によって確認している。

- 1) ①基本確認試験、②特殊条件確認試験、③溶接部硬さ測定、④溶接部マクロ組織観察
- 2) 「鉄筋の溶接継手性能判定基準」に定められた一方向繰返し試験および溶接部曲げ試験
- 3) SD490鉄筋の曲げ試験

技術評価の主な審議事項

技術評価の主な審議事項は、以下の通りである。

- 1) 溶接継手性能検証試験の妥当性
- 2) 溶接継手性能品質管理の妥当性

技術評価の経過

2021年8月2日開催の第50回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記)で申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は、専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について慎重に審議を行い、結果を2021年10月8日開催の第51回建築構造技術審議委員会に報告した。

建築構造技術審議委員会では、申込者提出の技術資料について慎重に審議を行い、本技術は妥当なものであると判断した。

以上